

るんるん

(ルンビニ園広報)

発行者 児童養護施設ルンビニ園 広報委員

平成27年5月1日 第40号

園長のつぶやき

新しい年度（平成27年度）が始まり、職員一同こころ新たに出発しております。

先日、ある本を読んでおりましたら、「知能の高いのも賢い馬鹿にすぎない。そして始末におえない。」という文章に出会いました。この言葉に興味をそそられ、中を読みすすんでまいりますと、「何も知らない、分からないということよりも、逆に自分は何でも知っていると思うことにより、自分の知識や考えを絶対的なものとして固執し、聞き直しや問いなおすことをしない愚かさ。」とありました。さらに、「この自分の考えは絶対間違いないという固執ほど、世を暗くするものではなく、聞く耳もたぬ固執性ほど、人間を狂わせ、傷つけるものはない。」と付け加えられておりました。

児童養護の仕事をいただき、数年の時間が流れてまいりましたが、いつしか「児童養護施設はこうあるべきだ」との妄想にとらわれている自分にハッとしました。

今、児童養護を取り巻く環境は様々に変化をみせております。とりわけ、社会的養護を必要とする子ども達に“あたりまえの生活を”と、「社会的養護の課題と将来像」で提唱され、児童養護に関する様々な研修会等を通じて盛んに謳われております。

「あたりまえの生活」とは、実に難しい定義だと思われまます。仏教的に考えれば、実は“あたりまえ”なんてないのかもしれませんが。生きているだけで不思議なことなのです。ここに言われていることの何を“あたりまえ”とするのか、ひょっとしたらそれぞれに違うのかもしれませんが。衣・食・住がきちっと保障されるのが“あたりまえ”であるならば、今の施設は十分なのです。ですが、何かもの足りないものがあるのです。あるとすれば、「感謝（恩）と感動の芽を培う生活」ということだろうと思われてなりません。しかし、そこに至る道には幾通りもあるわけでしょうが、共通することは、自分のために大人が頑張ってくれているという姿こそがそこに見えてくることなのだろうと思うのです。親には、意識しなくとも、一生懸命に働き家族を守っていくという姿があります。その日常のたわいもない生活を送っていく中で、子はその親の姿を自らの生き方にしていくのではないのでしょうか。

私たち大人は、今日に至るまで数多のことを学んでまいりました。そのことが、もしも足かせになっているのであれば、そのことを今一度自分自身に問いなおしてみることが必要なのかもしれませんが。

かるた大会～百人一首～

「秋の田のかりほの庵の苫をあらみ」…「はいっ」と集会室（本堂）に元気な声が轟きます。

雪が降りしきる1月10日（土）、ルンビニ園集会室（本堂）において百人一首のかるた大会が

行われました。男女6グループに分かれて戦いが繰り広げられ、職員の読み上げが行われると、「ハイッ」と一斉に声上がり、同時に畳を叩く音が聞こえてきます。また、「やったあ」とともにため息も漏れてくるなど、白熱した雰囲気醸し出されました。この百人一首の大会は、ルンビニ園では昔から続けられておりますが、子どもたちは上の句・下の句を上手に覚えており、とても緊迫した大会となっているのです。



う〜ん 緊張する！



まけるもんか！

百人一首じゃないけど、わたしたちも参加してま〜す



節分 おには外、ふくは内

「富山ライオンズクラブの皆さんとルンビニ園児との節分の集い」



豆を撒く袴姿のライオンズのみなさんで～す

「節分とは、春夏秋冬の変わり目を表すものであり、その節目に人々の幸せを願う行事が今に伝わっております。」と、富山ライオンズクラブ会長さんから子ども達への説明がありました。

午前9時ごろに降り出した雪がルンビニ園の駐車場を瞬く間に白く染めていった1月31日（土）、ルンビニ園では恒例となっております「富山ライオンズクラブ（五十嵐博明会長）」の皆さまとルンビニ園児との「節分の集い」が、ルンビニ園の集会室（本堂）において行われました。

五十嵐会長さんのごあいさつと坂本園長の謝辞の後、約60人の園児に向かって、袴姿のライオンズの皆さまが「鬼は外、福は内」と大きな声をかけながら豆の代わりとなった飴をまきました。子どもたちは、手に持った袋を広げながら飛んでくる飴をキャッチしておりました。どの子にも、子どもらしい笑顔とはしゃぐ姿があり、とても幸せなひとときでした。

豆まきが終わり、子どもたちはその後、「マジシャンコンプレッサー」の皆さんによるマジックショーを楽しみました。また、男女中高生の子もたちは食堂において、富山県厚生部くすり政策課職員の方より「違法薬物」についてのお話がありました。子どもたちは、薬物の怖さについてのお話に真剣なまなざしで聞いておりました。最後に児童の代表者が、ライオンズの皆さんに感謝の思いをお礼の言葉に込め、今年の「節分の集い」が幕を閉じました。



“マジシャンコンプレッサーさん”の巧みなマジックです

なお、翌2月3日(火)にルンビニ園主催の節分会が執り行われました。
恒田理事長導師のもとお経のお勤めがおこなわれ、今年の歳男と歳女の
子どもたちが、元気に豆をまきました。最後に、子ども達一人一人がお
焼香し、節分会を終了しました。



ねえ、なんて言ってまけば
いいの？
そおれ！でもいいかなあ

元気で
頑張ってるね！



フルーツの会

第42回目となります「NPO 食と福祉と環境を考えるネットワーク」による「フルーツウエルフェアパーティー」が2月8日（日）、ルンビニ園食堂において開催されました。ネットワーク代表の牛島会長さんをはじめ沢山の皆さんにご来園いただき、子ども達に様々な体験の機会をいただきました。特に、「蕎麦打ち」や「フルーツ食の盛り付け」などの体験を通して、食の大切さと有り難さを学ぶ貴重なひとときとなりました。

こちらは 蕎麦打ち体験
です。そばをこねるのに
結構ほねがおれます。ネ
ットワークの皆さんも
心配そうにしています。



こちらは 半分に切
りくり抜いたパイ
ナップを皿にして
カレーライスの盛り
付けです。

涅槃会

陰暦の2月15日にお釈迦さまがお亡くなりになられたと伝えられておりますが、この日を「涅槃会」として各お寺では法要がおこなわれております。

本園では、少し遅れた2月28日の午前中に執り行われました。この日は、本堂の正面に涅槃図がかけられ、恒田理事長より、お釈迦様のお亡くなりになられたご様子の説明がなされました。

お話がおわり、本堂に集まった子どもたちと職員とでお経があげられた後、理事長を中心に職

員の代表者によって、色とりどりの涅槃団子が勢いよく本堂にまかれました。子どもたちは、頭上に降ってきた涅槃団子を大きな歓声をあげながら袋の中に入れておりました。ある児童は、ポリ袋いっぱいのお団子を職員に得意そうに見せておりました。子どもたち一人一人の元気な姿に、職員も目じりが下がりました。

いちごの
袋にお団子を
入れて
どこにつけよ
うかな！



激励会—退園の集い—

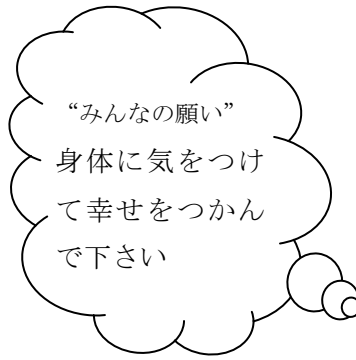


せんばい あり
がとう！
げんきにがんば
ってください！

女子高校生1名の卒園激励会となった3月8日（土）、ルンビニ園集会室（本堂）において、卒園していく児童と在園児、そして職員全員が一同に集まり激励の集いが行われました。集会室に所せましと並べられた机には、ジュースやハンバーガーなど、美味しいおやつが配られ華やかな会場が演出されました。

激励会は、園長の開会あいさつの後、在園児童や職員より次々と出し物が発表されるなど、楽しい時間が経過していきました。特に、卒園児が所属していたスジャータホームの女子中高生のコーラスに、ちょっと目頭が熱くなりました。

終わりに、卒園していく子どもから会場の全員へ、「15年の長い間、みんなと一緒に暮せたことを忘れません。」との感謝の言葉で、今年の卒園激励会は結びとなりました。



かわりめ

3月16日（月）は、月岡中学校の卒業式でした。今回は、6人（男子2人、女子4人）の子どもたちが中学校を卒業しました。6人の子どもたちは、いずれも高等学校に進学しました。また、3月19日（木）は、月岡小学校の卒業式でした。今回は、4人（男子2人、女子2人）の子どもたちが小学校を卒業し、中学校へと進みました。

入学式は、月岡中学校並びに各高校とも4月8日（水）に行われ、新中学1年生、新高校1年生が誕生しました。ところが、新小学1年生は一人もいなかったのです。今年は、真新しいランドセルを背負った子ども達の姿をみる事が出来なくてとても残念でした。でも、幼稚園の入園式が4月9日（木）にあり、可愛い姿を見ることができました。下の写真は、新たに入園式を終えた子ども達です。ルンビニ園の職員玄関で撮影しました。



新しい体制

平成27年度は、62人（男子28人、女子34人）の子ども達で始まってまいります。

子どもたちの所属は、無憂華ホーム17人、ラゴラホーム17人、白蓮華ホーム11人、スジャータホーム17人となり、職員配置は、無憂華ホーム6人、ラゴラホーム6人、白蓮華ホーム4人、スジャータホーム5人の体制となります。

児童配置

所属ホーム	予定人数	内 訳
無憂華ホーム	17 (18)	幼9、小三2、小五6
ラゴラホーム	17 (13)	小六4、中一2、中ニ3、中三4、 高一2、高二1
白蓮華ホーム	11 (13)	小二2、小三1、小四3、小五3、 小六2
スジャータホーム	17 (19)	中一2、中二4、中三3、高一3、 高二1、高三4
計	62 (63)	

() 書きは前年度

終りに



今冬は、いつまでも寒さを引きずってしまった、そんな思いのする冬でしたね。ルンビニ園の駐車場には、除雪で溜まった雪が長い間、高く積み上げられてありました。ある日のこと、その積み上げられた大きな雪山で、子どもたちが“そり滑り”を楽しんでいました。元気に遊んでいる子ども達に、私たち大人も小さかった頃を思い出して、つい微笑んでしまいました。みなさん、本年度もお付き合いを賜りますよう、よろしく申し上げます。

職員一同